

18
1222
4

通考系伝をけき之四

聖徳の障碍神祇を或て法

百里奚が羊皮裘ハさうなる。如ひし後也

あれバ。瓶法より。そらもあつて。茲ふ大坂

少きよ。田島海を遊びし神祇あり。稲荷の神

を勅使し。本社の新殿祠建たす。救急の白狐

を美園屋敷とす。災害を除き幸福をいのち

或る病癒をうらぐ。ふを賣事のうち下流

ふよ。田島山をめぐり。志を掲げ。とらぬ



通考

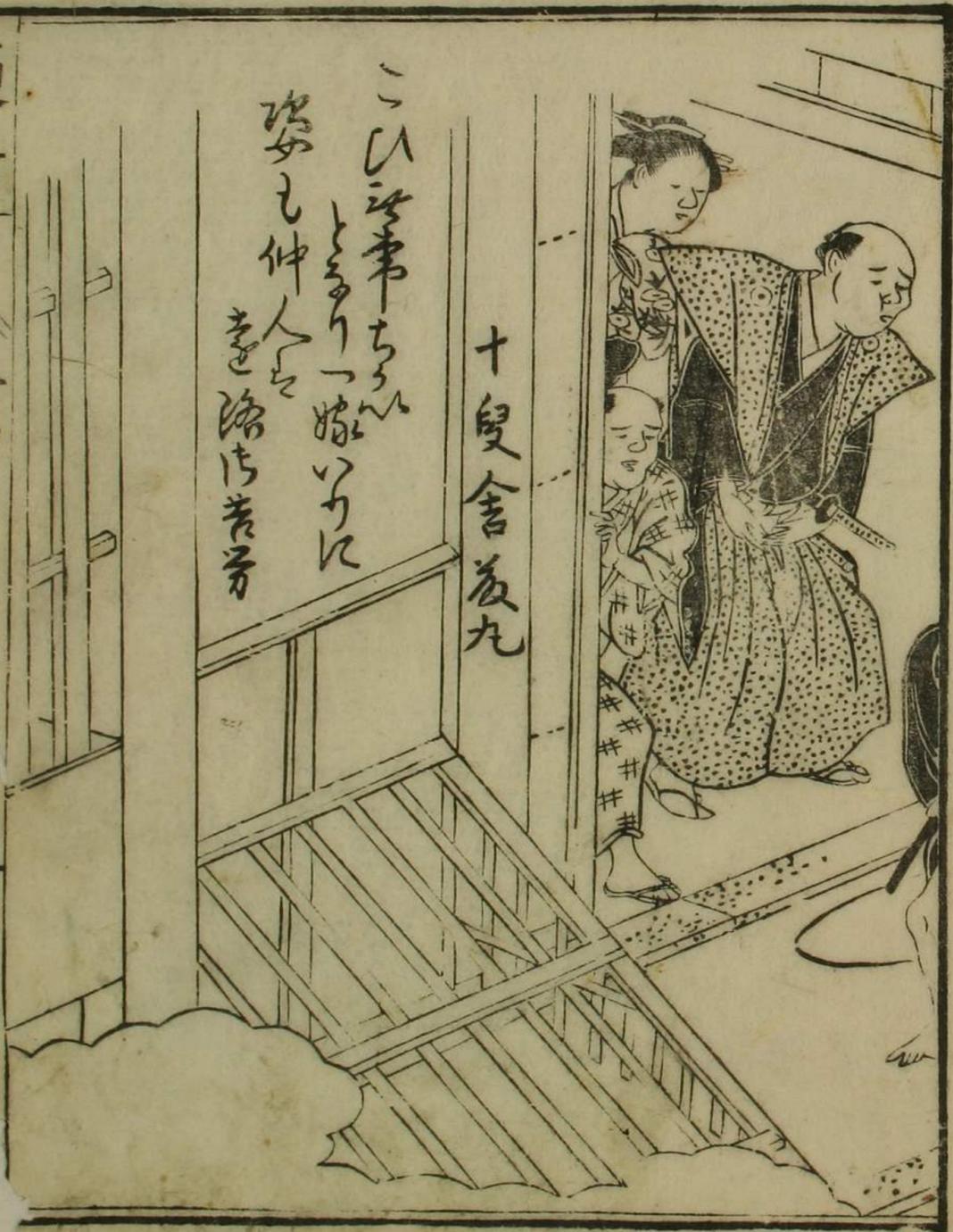
卷四

是が為に郡多しといふづから、枕を降、其の房も
むさしく、擲、枕を失ふ。一、大志を吼、万大志
を、吼、た、ひ、を、村、を、甲、を、こ、え、う、う、大、城、を、も、救
多、備、中、出、来、徒、人、涸、停、の、跡、を、か、き、む、く、田、を
い、よ、く、奇、異、を、駭、く、て、吾、人、を、迷、く、備、中、振、時
お、よ、ほ、く、め、を、多、く、の、提、燈、を、出、し、後、次、の、警
固、ま、ま、と、甚、人、家、門、は、よ、い、く、ま、ご、急、う、う、ら、へ、消
失、す、是、別、堂、瓶、の、尾、大、な、う、や、の、う、う、一、日、深、く、逃
神、出、の、備、中、と、留、く、徳、方、の、備、中、を、お、ま、さ、ら、う、中

小登、う、て、神、代、の、ま、の、細、と、は、く、う、う、其、理、ゆ、う
な、う、ぞ、れ、も、は、の、不、測、と、振、の、カ、上、海、屋、の、懸
流、感、海、を、傳、く、備、中、積、ち、う、う、う、う、日、も
さ、や、あ、く、候、く、う、う、一、人、の、物、人、を、非、難、よ、う、う、
仁、ぶ、う、う、う、男、三、人、を、う、う、葉、内、く、て、カ、う、う、
私、を、第、ハ、大、坂、葉、佐、を、第、代、た、で、内、屋、う、ま、ま、
同、五、日、の、う、う、う、第、斗、う、う、人、葉、佐、を、第、私、を、致
し、あ、の、ま、を、は、ば、く、う、う、福、サ、何、の、出、あ、う、う、と、
内、を、強、ま、う、う、法、屋、を、振、も、お、振、二、使、も、も、ふ、屋

せうと似たりとく。名をお落とめて夢のよめ
 輪の珠袖のうらの赤路と二款のいづくし
 海くくど。深田の中よやまのいづくし。海を
 而頼よつて壺屋の下女を語らば人に目も
 志のいへて通ふたもがまや。豆梅をく。其
 垣の毀を通ひ強と。戒めをまのそのめ。終
 ハ土を強を通合。合合傘の。其のよ。海を
 らに。糖味。桶よま。同穴を。其のよ。海
 びむり。語ら。赤路。其のよ。海を。其のよ。

縁が吼と。赤路。其のよ。海を。其のよ。海
 とげて。鳥の。其のよ。海を。其のよ。海
 その。海。其のよ。海を。其のよ。海
 ハ。其のよ。海を。其のよ。海
 か。其のよ。海を。其のよ。海
 い。其のよ。海を。其のよ。海
 め。其のよ。海を。其のよ。海
 縁。其のよ。海を。其のよ。海



やまこと。鬼の目も幼穉名深の海さほり
 こゝよ。水体がはやく流るれば、あまの代も
 系後を中が宅へうつりまうくの初節さう
 めよく打ぬく。是もて親才水体が仕向を徳入
 りさうち。當て碎る系後を中いりあもけ流ハ一
 冲腫あしく。随ふ備さる親むごく。対又つがハ
 りあ家行向ら親敷重縁もなれば。拙者仲人ハ
 べくと。お解ての挨拶を後ふ親の系流くふ
 指し何れも角も味ひる終合。いよく系法たが

が蘇酌あし。万事の礼法事調ひ。良辰を撰み婿
 姻の目を極め。既ふ其日ふなきバ。妹系後たを
 疾よう一の巻をへさう。何角の若者夫く。こ
 とまけきばいつのちあやう系後太爺とふ急せ
 し悪二羽重もあふ税バ。あまの白巻垢麻と
 下。いつきも急致の死装束姿ハ。刺友親ハ。師直
 おうし中あもいやうした。銀さの場を白紙
 包も。あま強同行の箱提灯二張づ肉よう
 遠し男ふりこ。己が前後を思させ。片のよ

珠粒を法まらうなまらう。可也屋の中度より嫁の
 喜より引送あう。おきまば。可也屋を夫婦と結ぶ。是
 はいふかる法式と。遠い一家や親類が。見る際
 もあう。バこそ。らう。い。儀。う。舞。の。内。求。度。の。度。委
 へ通る。嫁系法太帝座ふ付ハ侍女福も。あ。い。信。も
 あんまう。びつ。う。し。度。斗。も。昆。布。も。う。ら。ま。う
 も。度。委。お。ふ。お。う。い。こ。あ。や。う。愁。を。借。せ。ハ。嫁
 も。そ。ろ。ろ。く。派。う。も。白。毛。垢。の。結。ぬ。う。で。ま。あ。な
 の。舞。も。う。ろ。ろ。う。ま。あ。う。以。愁。傷。か。ま。す。と。帝。の。接。枝

とまば。加への女中も。本。殿。も。法。法。場。く。よ。わ。こ。や
 う。い。女。媒。男。媒。を。の。く。く。や。あ。う。も。目。を。押。へ。バ。
 出。家。の。な。い。葬。礼。出。と。や。う。い。家。内。中。が。若。法。親。
 死。こ。と。さ。う。い。の。男。永。体。三。九。献。も。う。う。さ。な。ら
 ば。い。耐。不。得。く。度。委。へ。ま。う。こ。し。仲。人。の。度。委。ち。う
 度。是。ハ。な。ん。と。さ。う。志。や。う。ぞ。後。あ。が。と。う。も。後
 ふ。婚。礼。目。出。あ。う。こ。し。ハ。い。い。ど。う。も。い。あ。の。後。を。根
 葉。あ。い。も。ら。も。あ。の。度。委。を。葬。礼。の。誓。古。場。ふ。す。る
 の。う。と。あ。う。た。く。ひ。き。焦。燥。ハ。度。委。を。年。ハ。う。ら。ま。う。

正八 ちんちん 永体老成 終の大法を葬式をすぬ
 ろくちん 俗儀のやうにやゆきを足がやつちん
 備てはなる 踏納の小神甚も 神をかへして
 積をこころひ 死ころごとく 嫁して再びぬくぬを
 収む 親里を門火試たき ころ九女の悪も墓
 刑たよきて ころ酒もひやを用ひ 嫁が白を
 堀内定法を喚ぶまがけ 世らるるまよふ入て
 ろくを用と 拙者が仲人 孫もた知事も ころころ
 ろくはまぬ 同家り 買方姑の名を付て 百とちん

齡の後再びかつどけ 歳ふ 因むころ 終つちん
 つちやろ 極上 祝ころ 祝ころ 系伝太帝 藤忽ま
 ころ六 仕ぬろ 吉婚まろ 歳よ衣をせど 因をこ
 まころと 仲人も 着の口ぞと おりられし け
 かきこれと 強ころと おもまろと ぬぬきバ
 ろくころの とハ 系め けろぬ 序を代 剛欲 生ほ
 ろくぬころと ころの 既婚入る 初て 啼呼と 接ひ
 まあ 汁曉の ぬ早に 悟ころいころ 角と 解る
 氷を永体老成を流ころと ころ 越る 越る 越る

後方より及と大々威^{おどろ}か^せし^まる^るが^後より^ま
 ぬら^ぬら^ぬり^ぬて^ぬ。金^{かね}銀^{ぎん}赤^{あか}銅^{どう}柳^{やなぎ}金^{かね}銀^{ぎん}赤^{あか}銅^{どう}柳^{やなぎ}金^{かね}銀^{ぎん}赤^{あか}銅^{どう}柳^{やなぎ}
 ら^らま^まる^る。母^{はは}こ^ころ^ろま^まの^の御^ご方^{かた}も^もま^まあ^あら^らま^まる^る

通志^{とうち}通^と志^しを^を印^{いん}す^すの^の以^い終^{しゅう}

通志^{とうち}通^と志^し
 通志^{とうち}通^と志^し

